

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	文化遺産が所在する最寄駅の乗降者者数					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 1 :	地下鉄最寄駅(高岳・市役所・西高蔵・神宮西・伝馬町)の乗降車人数の合計			関連事業:	①②③⑤	
目標値 1 :	平成 27 年度	1,585 万人/年		⇒	平成 33 年度	1,607 万人/年
設定根拠 1 :	平成27年度の5駅の乗降車客数の合計は1,585万人であり、今後、毎年約3万6千人増加すると設定					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 34 年度	
	万人/年	万人/年	万人/年	万人/年	万人/年	万人/年
目標区分 2 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 2 :	地域の祭礼行事等への入込客数					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 2 :	実行委員会構成団体の実施する地域の祭礼行事等への入込客数			関連事業:	④	
目標値 2 :	平成 28 年度	300 人		⇒	平成 33 年度	550 人
設定根拠 2 :	平成28年度地域の祭礼行事の入込客数が300人のため毎年50人増やすよう設定。					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
	人	人	人	人	人	人
目標区分 3 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 3 :	祭礼行事への参加住民数					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 3 :	実行委員会構成団体の実施する祭礼行事への参加住民数			関連事業:	⑥⑦⑧⑨	
目標値 3 :	平成 28 年度	1,899 人		⇒	平成 33 年度	2,035 人
設定根拠 3 :	平成28年度地域の祭礼行事への参加住民数が1,899人のため毎年20人以上増やすよう設定。					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
	人	人	人	人	人	人
目標区分 4 :						
評価指標区分 4 :						(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 4 :				関連事業:		
目標値 4 :	平成 年度	%		⇒	平成 年度	%
設定根拠 4 :						
進捗状況 4 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度
	%	%	%	%	%	%

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	山車囃子・からくり競演	実施団体：	名古屋文化遺産活用実行委員会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度			
事業概要：	東区に伝わる5輛の山車のうち、西之切奉賛会・中之切奉賛会・古出来町奉賛会によるお囃子の披露とからくりの展示・実演。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	ホームページの閲覧数 (NPO法人「東区山車まつり振興会」)					
目標値：	平成 28 年度 132,619(累積) 件		⇒		平成 33 年度 300,000(累積) 件	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成 34 年度
	件		件		件	件
事業②：	地域の文化財を一体的に活用した普及啓発事業 (①文化財巡り)	実施団体：	名古屋文化遺産活用実行委員会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度			
事業概要：	江戸から明治、大正へと続く名古屋の近世・近代の歩みを伝える文化財が多数残されている名古屋城から徳川園に至る文化のみち界限において、より多くの市民等に対し、幅広く文化財に触れ、周知する機会を提供するため、複数の文化財を活用し、伝統文化における共通題材を設け、文化財を巡るスタンプラリーを1カ月程度実施する。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	スタンプラリーで巡る施設 (名古屋城・文化のみち榎木館・文化のみち二葉館・名古屋陶磁器会館・名古屋市蓬左文庫・徳川園・徳川美術館) の年間来館者数の合計					
目標値：	平成 28 年度 2,480,000 人		⇒		平成 33 年度 2,520,000 人	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成 34 年度
	人		人		人	人
事業③：	地域の文化財を一体的に活用した普及啓発事業 (②熱田寺院特別公開)	実施団体：	名古屋文化遺産活用実行委員会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 30 年度			
事業概要：	悠久の歴史を誇る熱田界限において、市民等が地域の文化財および歴史的建造物等に触れることができるよう、各施設、ガイドボランティア等の協力を得て、県指定文化財を有する聖徳寺、市指定文化財を有する雲心寺をはじめとする、日頃は非公開である寺院の本堂や所蔵宝物を特別に公開する。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	市内の歴史・文化遺産などを紹介するスマホアプリ「名古屋歴史スマートナビ」の累積ダウンロード数					
目標値：	平成 28 年度 4,539 (累積) 件		⇒		平成 33 年度 8,000 (累積) 件	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成 34 年度
	件		件		件	件

事業⑦：	継承のために用いる映像記録作成				実施団体：	神皇車保存会・正調名古屋甚句保存会	
事業区分：	記録作成			事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
事業概要：	地域で昔から伝えられている行事を正しく継承していくため映像記録作成する。また、普及版の映像も作成し、地域に情報発信することで保存会会員数を維持していく。						
評価指標区分：	・記録映像の貸し出し（又は利用）回数等				（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	神皇車保存会・正調名古屋甚句保存会の記録映像の貸し出し回数						
目標値：	平成 28 年度		20 回		⇒ 平成 33 年度		35 回
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度		
回	回	回	回	回	回	回	
事業⑧：	後継者育成のための講習会			実施団体：	1. 催馬楽桜人保存会 2. 福祿寿車山車保存会 3. 神皇車保存会 4. 西之切奉賛会 5. 中之切奉賛会 6. 古出来町お祭囃子保存会 7. 下花車二福神車保存会 8. 内屋敷唐子会 9. 成海神社山車保存会（丹下） 10. 正調名古屋甚句保存会		
事業区分：	後継者養成			事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
事業概要：	地域で昔から伝えられている行事を正しく継承していくための人づくりのための講習会を実施し、保存会会員数を維持する。						
評価指標区分：	・保存会会員数の変化（維持）				（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	後継者育成のための講習会を実施する保存会会員数の変化（維持）						
目標値：	平成 28 年度		612 人		⇒ 平成 33 年度		685 人
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度		
人	人	人	人	人	人	人	

事業⑨：	無形の文化財の継承のために用いられる用具の修理・新調	実施団体：	1. 福祿寿車山車保存会 2. 神皇車保存会 3. 湯取車保存会 4. 西之切奉賛会 5. 中之切奉賛会 6. 古出来町お祭囃子保存会 7. 八幡社山車保存会 8. 郷土芸能保存会 9. 戸田五ノ割神明社山車保存会 10. 天満社文嶺講 11. 下花車二福神車保存会 12. 内屋敷唐子会 13. 成海神社山車保存会 (丹下) 14. 成海神社山車保存会 (北浦) 15. 成海神社山車保存会 (城之下) 16. 鳴海表方祭り保存会 (作町) 17. 鳴海表方祭り保存会 (中嶋) 18. 二福神車山車保存会 19. 正調名古屋甚句保存会 20. 大森共存会		
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
事業概要：	貴重な用具の修理・新調し、後世に正しく無形の文化財の価値を継承していく。また、それに付随して、後継者育成の機会を作り、保存会会員数を維持していく。				
評価指標区分：	・保存会会員数の変化（維持）	（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	無形の文化財の継承のために用いられる用具の修理・新調を実施する保存会会員数の変化（維持）				
目標値：	平成 28 年度 1,884 人 ⇒ 平成 33 年度 2,015 人				
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
人	人	人	人	人	人